



「つながっている」
「元氣ないね。
何かあったの?」
そんな問いかけに
『学校祭も終わって、あと
僕たちに残っているの
は卒業式だけかと思っ
たら、さみしくなそ』
と遠く中庭を
見つめていた目は
ここでの日々を
一つ一つ
終わってしまったものを
噛み締めているようだ
月日は本当に早いもの
出会いと別れを繰り返して
自分の心に留めてきた
心に刻まれた思い出の
重さははかりえない
別れが約束された
出会いからはじまる
ここでの三年間は
すべてが消えない思い出と
姿に換え
一つの幕が下りる
しかしそれは
新しいはじまり
ここで得たように
新しい出会いが
君を待っている
そう考えればきこ
この一つの終わりは
意味があったはず
一つ一つの思い出が
一本の糸で
つながっているように
私達もまたつながっている

